



授業実践 「統計データの読み方」

福島 健一郎 教諭 探究進学科 人間生活探究

探究進学科76名を対象に、課題研究のガイダンスの一環として実施しました。身の回りは情報に溢れており、数的データを正しく読み取ることは社会生活の中で必須の能力となっています。生徒の課題研究においても、手にしたデータをどのように処理し根拠あるものとして利用できるかが重要です。本授業は身近に起こりうる事例を質問形式で提示し、生徒同士でペアワークさせながら適宜解説を加えていくことで、データの取り扱いについて注意すべき点を、生徒自身の気づきの中から深めていきました。生徒は周囲とのやり取りの中で多くの設問で本質的な留意点を捉えることができ、こちらが想定した以上の意見を見出す場面もありました。

【問1】

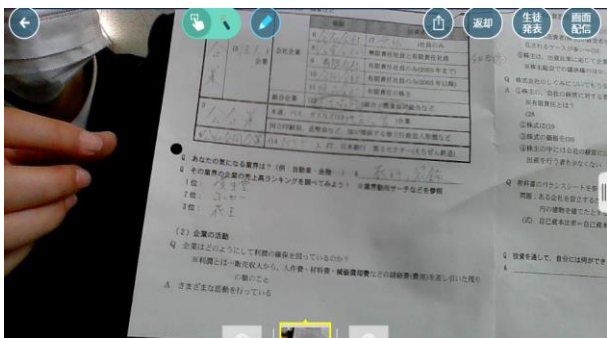
次の主張は正しいだろうか。
「日本では、自動車に乗っていて事故で亡くなる人が毎年数千人いるのに対して、飛行機に乗っていて事故で亡くなる人は、大きな事故があった年でも数百人、近年では年間数名から十数名である。よって自動車より飛行機の方が安全だと言える。」

この経験を生かし、本年度の課題研究では統計的内容を踏まえたより説得力のある研究結果の発表を期待しているところです。また私自身も統計学の理解を深めていこうと考えています。

「ロイロノートの活用実践」

室井 浩貴 教諭 1年4組 現代社会

今年度から導入されたロイロノートを授業で実際に活用しました。「将来どのような企業で働きたいか?」という問いに対して自分の意見を思考ツールにまとめて提出したり、業種別の企業の売上高ランキングを紙面上に作成し、写真で提出したりする実践を行いました。提出物をその場にいる全員で共有できる「ライブ感」が魅力的で、ロイロノートを使用すれば、生徒の意見を授業に取り入れやすくなり、教室にいる全員で授業を作りやすいと感じました。小テストや討論の授業でも使用しやすと思うので、これからも積極的に使用していきたいと思えます。

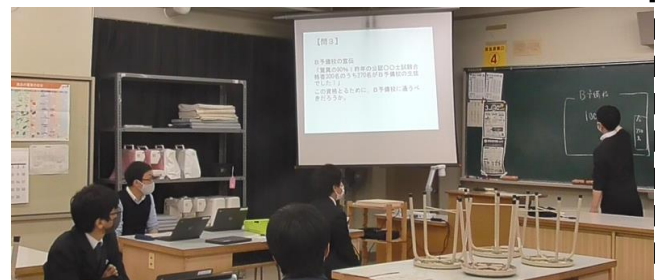


第1回PT会議より

4/30(金)16:40~被服室にて、今年度第1回の授業改善PT会議を行いました。福島先生(数学)からの「統計データの読み方」に関する授業実践報告がありました。

その後、ロイロノートの活用に関する研修を行いました。昨年度にもロイロノートの研修を行いました。今回は一人一台chromebookを実際に使用して、基本的な使用方法を学んでいきました。ロイロノートは小学校でよく活用されている学習ツールであり、直感的に操作できることが強みです。今回の研修では、ロイロノートには様々な機能があることを改めて発見しました。今後は、実際にどのようにロイロノートを授業や学校業務の中で使用していくかについてや、現在武生高校に導入されているClassiやG suite for educationと、どのように使い分けしていくかについて、議論する必要性を感じました。

今年度は授業改善プロジェクトチームを中心に、教員指導力向上推進事業を行っていきます。大学の先生など外部の有識者をお招きして、公開授業や授業研究等を複数回行う予定です。各回の実践報告については、それぞれPT通信でお伝えしていきます!



武生高校の授業改善PTの活動は5年目に突入しました!武生高校では優れた実践を行っている先生方がたくさんいらっしゃいます。そのような実践や手法を共有する場を今年度も継続的に整えていきたいと思えます。「大学入学共通テスト」「ICTの活用」「教科横断型」に加えて、今年度の課題として、「新学習指導要領」への準備が挙げられます。残された時間の中で、PTのメンバーを中心に、授業改善を進めていきたいと思えます。(室井)